

内部監査の部門長・企画責任者必見

内部監査の高度化実務とトレンド

～参考書には載っていない実践的手法の紹介～

《開催要領》 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせていただきます。

日時▶ 2019年10月1日(火) 13:00～17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

《セミナーのポイント》

「経営者や監査役から内部監査の高度化を求められているが、何から着手したら良いかわからない」、「内部監査がマンネリ化し、内部監査に対する期待・関心が低下している」、「人材不足により、思うような内部監査ができない」、これらの課題を解決するためのヒントがここにあります。

講師 EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社 パートナー 林 直樹 氏

【講師ご略歴】内部監査、内部統制、コーポレートガバナンス、グローバルグループガバナンス、リスクマネジメントなどの支援に従事。IIA 内部監査推進全国大会など講演多数。EY 入所以前は、大手監査法人にて会計監査に従事した後、大手通信会社および外資系ヘルスケア企業にて、監査委員会の設立、内部監査、内部統制、SOX 法対応などに従事。その後、コンサルタントに転身し、外資系コンサルティングファームにて、内部監査支援などに従事。EY Japan 内部監査サービスリーダー、米国公認会計士(ワシントン州)、内部監査品質評価認定者(Accreditation in Internal Quality Assessment/Validation)、早稲田大学大学院会計研究科 非常勤講師



《申込方法》 当会ホームページ (https://www.bri.or.jp) からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

■受講料: 1名(税込・資料代含) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の使用状況(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員 35,200円 (本体価格 32,000円) 一般 38,500円 (本体価格 35,000円)

191536-0202 内部監査の高度化実務とトレンド

ふりがな 会社名			
住所			
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 役	属 職	
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当宛 E-mail からもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間～10日前まで)に受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問 (FAQ) は当会 HP にてご確認くださいませ。(公開セミナー・会員研究会)→[よくあるご質問]

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 セミナー事業グループ 担当/民秋 E-mail: tamiaki@bri.or.jp

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F

・プログラム・

■開催にあたって■

最近のコーポレートガバナンス改革による社外取締役、社外監査役からの要請の高まり、事業環境の急激な変化、度重なる企業不祥事、大企業に対する世間の風当たりの強まり等を受けて、内部監査部門に対する期待や要求は、これまでとは比較にならないぐらい高まっています。しかし、企業の内部監査部門では、それに応えるだけのノウハウ、人材を有しておらず、対応に苦慮しています。日本において内部監査に力が注がれるようになったのは、ごく最近のことであり、それも当然のことといえます。

そこで、本セミナーでは、企業において内部監査の高度化を担う皆様の一助となるべく、内部監査コンサルティングの第一線で活躍するコンサルタントが、参考書には載っていない内部監査の高度化のための実践的手法と、コンサルティング実績に基づく最近の高度化トレンドを紹介します。内部監査部門長・企画責任者必見のプログラムとなります。是非、この機会に皆様のご参加をお勧めします。

1. 内部監査を取り巻く環境の変化
2. 内部監査高度化のための4要素
3. 内部監査の高度化アプローチ

(1) メソドロジの高度化

リスクアプローチ監査、異常点監査、Minimum Control Requirements 導入

(2) コンテンツの拡充

標準監査手続書の整備、監査ノウハウの可視化(例. 監査要点の導出技法、監査手続のライティング技法、指摘事項のライティング技法、問題の原因と再発防止策の対応パターン分類)、経営者報告資料の拡充など

(3) 組織・人材の強化

グローバル監査体制の構築、人材育成プログラム、品質管理プログラムなど

(4) テクノロジーの活用

GRC ツール、CAAT、RPA など

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。